

草加市総合教育会議会議録

令和4年度第1回

令和4年度第1回草加市総合教育会議

令和5年2月13日（月）午前10時から

職員研修室（紅藤カナダビル2階）

○議 題

草加市における今後の教育行政について～「だれもが幸せなまち 草加」の実現に向けて～

○出席者

市 長	山 川 百 合 子
教 育 長	山 本 好 一 郎
教育長職務代理者	小 澤 尚 久
教 育 委 員	加 藤 由 美
教 育 委 員	宇 田 川 久 美 子
教 育 委 員	川 井 か す み
教 育 委 員	峰 崎 隆 司

○事務局

総合政策部長	津 曲 幸 雄
総合政策課長	平 木 勇 二
総合政策課課長補佐	勝 田 強
総合政策課主事	高 見 恭 兵
教育総務部長	青 木 裕
教育総務部副部長	河 野 健
教育総務部副部長	川 西 潤 一
総務企画課長	浅 古 亮 一
学 務 課 長	鈴 木 英 治
指 導 課 長	和 田 卓
教育支援室長	篠 崎 光 浩

子ども教育連携推進室長	春日	和久
学校施設課長	榎	吉久子
生涯学習課長	福原	宏
中央図書館長	長澤	富美子
総務企画課課長補佐	山岸	亮
総務企画課庶務企画係長	西塔	翼

○傍聴人 0人

午前10時00分 開会

◎開会の宣言

○総合政策部長 ただ今から、令和4年度第1回草加市総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、総合政策部の津曲でございます。どうぞよろしくお願いいいたします。

開会に先立ちまして、傍聴の許可の確認をさせていただきます。現時点で、傍聴希望者はいらっしゃいませんが、会議の途中で傍聴者がお見えになりましたら、その都度、ご報告させていただくことでよろしいでしょうか。

○山川百合子市長 はい、よろしくお願いたします。

◎配付資料の確認

○総合政策部長 それでは、本日お配りしております資料の確認をさせていただきます。

会議次第、出席者名簿、席次表、五大戦略プラスアルファと第三次草加市教育振興基本計画となります。皆さん、資料はおそろいでございますか。

よろしければ、次にご出席の皆さまに自己紹介をお願いしたいと思います。

◎自己紹介

○総合政策部長 それでは、大変お手数ではございますが、改めまして名簿の順で、簡単に自己紹介をお願いしたいと思っております。

市長から願いいいたします。

○山川百合子市長 皆さん、おはようございます。草加市長の山川百合子、戸籍では瀬戸百合子ということで、両方の名前を使っています。

昨年の10月29日より草加市長として就任させていただきました。以来、3か月半くらいになります。今日は初めての総合教育会議ということで、皆さんと意見交換させていただくこと、また皆さん、草加の教育に色々な思いを持ってこれまで臨んでいただいていること、それを伺いながら、また私の思いも伝えさせていただければということで、大変楽しみにしてまいりました。どうぞよろしく願いいいたします。

○総合政策部長 それでは名簿の順で願いいいたします。

○山本好一郎教育長 改めましておはようございます。草加市教育委員会教育長の山本好一郎

でございます。

教育委員の皆さんと力を合わせて、草加の教育の一步前進を図っているところでございます。引き続き全力で取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○小澤尚久教育長職務代理者 教育長職務代理者の小澤尚久でございます。生まれ育った町、草加で少しでもお役に立てるよう、これからも山本教育長を支え、みんなで努力して頑張つてまいりたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○加藤由美委員 おはようございます。教育委員の加藤と申します。よろしくお願ひいたします。私は普段から、年少さんから小学校6年生までの一般体育、体操を教へております。心も鍛え、体も鍛え、草加の子どもたちの笑顔が輝けるように、これからも全力を尽くしていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○宇田川久美子委員 おはようございます。教育委員、宇田川久美子です。私は薬剤師なのですが、薬を使わない薬剤師として活動しています。もはや逸脱した状態で活動してしまつて、薬剤師が薬を出さなければいけないという決まりはないと。それは、小さいときからずっと、何で同じことをしなきゃいけないのだろうと思つていた思ひです。そして、教育委員会、教育委員の皆さんの中でも、少しおてんばかと思ひますが、それを皆さんが受け入れてくださつて、こうやつて一緒に活動させていただけていることを心から感謝しています。こんな私も子どもを育て、そして、こんな私だからこそ、私の視点で今の子どもたちの未来について言えることもあるのかもしれないと思ひています。よろしくお願ひします。

○川井かすみ委員 改めまして、川井かすみでございます。よろしくお願ひいたします。先ほど辞令交付を受けて2期目となりました。全ての子どもたちが、やはり草加に生まれてよかった、草加で育つてよかったと、何よりもやはり幸せであると感じられるように、草加っ子を育むため、微力ながらこれまでの経験を生かし、更に尽力してまいりたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○峰崎隆司委員 おはようございます。教育委員の峰崎隆司です。昨年度からお世話になりまして、2年目が終わるところでございます。私は、長く市内の中学校で教員を務めておりまして、最後は栄小学校の校長として退職をしたのですが、小学校が高砂小学校、中学校は草加中学校を卒業しておりますので、地元の子どもたち、教え子が親になっていたり、そういう状況の中で教職の生活を続けてきました。学校の実際の現場を知っている立場から、教育委員会の中でも意見を述べさせていただいております。どうぞよろしくお願ひいたします。

◎議長就任

○総合政策部長 ありがとうございます。それでは、早速、議事に入らせていただきます。議事進行につきましては、山川市長をお願いいたします。

○山川百合子市長 それでは、皆様、会議の進行を行わせていただきますので、よろしく願いをいたします。

初めに、事務局より本日の協議・調整事項の概要について説明をお願いいたします。

◎協議・調整事項の説明

○総合政策課長 それでは、協議・調整事項について御説明いたします。

本日のテーマは、「草加市における今後の教育行政について～「だれもが幸せなまち 草加」の実現に向けて～」とさせていただきます。

会議開催の意義及びテーマ設定の趣旨でございますが、本日の会議は、山川市長が市長に就任されて初めての総合教育会議の開催となります。教育行政につきましては、重要な役割を持つ市長と教育委員会が一体となって教育行政を執行していく必要があることから、本日の会議は、自由な対話の場、自由な意見の場として方向性を共有する有意義な時間としていただければと考えています。

会議の流れといたしましては、絶対的な取決めはございませんが、名簿の順番に御自身のお考えや思いを御発言いただくとともに、随時意見交換を行っていただければと思います。そして、最後に、可能であれば、本日のまとめとして、草加市における今後の教育行政について、市長と教育委員会がその思いを共有することができればと考えております。なお、状況をみながらではございますが、必要に応じて休憩を挟みながら進めていきたいと思っております。

事務局からの説明は以上になります。

○山川百合子市長 ありがとうございます。

◎意見交換

○山川百合子市長 それでは、事務局から説明がありましたとおり、本日の会議の中で、今後の教育行政について、方向性や重点施策など、またその思いを共有できればと考えております。議事の執行につきまして御協力をお願い申し上げます。

最初に、皆様の教育行政に対する考えや思いを伺いたいと思っておりますのでお願いいたします。

順番は、名簿順でお願いしたいと思いますので、恐縮ですが、まず私からお話をさせていただければと思います。

ここに載っております五大戦略をご覧になっていただければと思います。最初に、ご挨拶のときに申し上げるべきでしたが、当初の会議時間は1時間とご案内したかと思うのですが、それを1時間早めて、全部で2時間とお願いをさせていただきまして、皆様にはご都合つけていただいております。皆様との意見交換をととても楽しみに、また重要だと思っております。長くさせていただきました。いろいろと意見交換をすることも大事ですので、とりあえずあまり時間制限をせずにさせていただければと思います。よろしく申し上げます。

五大戦略なのですが、見ていただきますと、大きく5つの項目になっておりまして、この順番で、最初が福祉、次が子育て・教育、そして、3番が地域経済、4番がまちづくり、そして、5番が、これはみんなで、草加市みんなでまちづくり自治基本条例の理念を実現するというところで、市民が主役とか市民自治ということで掲げています。

実は、これは、選挙で掲げたものなので、この順番は、このように並んでいるのですが、この順番によって優先順位が高いという意味ではありません。別に1番が最優先という意味ではないので、そこのところは是非お含み置きをいただきたいというふうに思います。

最も五大戦略の大元に据えているのは実は5番でありまして、草加市みんなでまちづくり自治基本条例の理念を実現しますということが、私が最も大事にして、この市政運営に当たっての基本として据えたところでございます。みんなでまちづくり条例の大元なのですが、大事なところなので条例の前文に記載されている文章を、短いですから全文読ませていただきます。「私たち草加市民は、このまちと人を愛し、デモクラシーの精神にのっとり、このまちが「市民の市民による市民のため」の存在であることを自覚し、すべての市民の自由と平等と公正を保障する「だれもが幸せなまち」をつくります。市民、市議会、市が市民自治を原則として、それぞれが主体的に次代をも見据えたまちづくりを行うため、ここに草加市みんなでまちづくり自治基本条例を制定します。」、このように掲げられております。これは平成16年6月に制定をされました。これは市議会がこの前文を起草し、アコスでやりましたが、市民の皆さんに場を設けて、市民の皆さんと一緒に作ったものでございます。

これは、草加市の全ての条例の最上位に位置する最高規範として位置付けられています。私は、ここに掲げられているこの理念、「だれもが幸せなまち」をつくるという、この理念の実現を全ての基本に置いて、この市政を運営していく所存でございます。その点をご理解いただければと思います。

その上で、「だれもが幸せなまち」と言っていますが、幸せとはなんだというのは人それぞれだと思います。幸せに決まった形はありませんし、何をもって幸せを感じるかというのは人それぞれだと思いますし、幸せの定義があるわけではないとはもちろん思いますが、私は幸せとは何だろうと考えたときに、まず一つは、自分自身をかけがえのない大切な存在と感じられること。人から、周りから大切にされていると感じられること。つまり、自分は愛されている、自分が自分自身を愛しているということだと思います。愛されるというのは、愛というのは人間が生きる上で最も根本的なことだと私は思っております。

2つ目として、自分が社会の一員として、その社会に貢献している、その社会をつくり上げている、つまり参加の有効感覚を感じられることではないかと私は思っています。

3つ目として、自分の可能性が最大限に開花されることではないかと私は思っています。

こういう理念をベースに市政運営を行っていきたいと思っているわけですが、そのベースの上に五大戦略がございます。1番は福祉のことで、誰一人取り残さない福祉と掲げています。そして、2番が子育て・教育のまちに本気で取り組みますということで、ここは直接的には皆様と、今日、お話、意見交換をさせていただく、あるいは日常にどのようなつながるか、つなげられたらというふうには思うのですが、そのところが直接的には関係するのかと思っています。

2番の子育て・教育のまちに本気で取り組みますということは、2つに分けていまして、子育て支援と教育ということに分けているわけです。もう少し言うと、子育て支援であり子育ての支援、子どもが育っていくことの支援であるというようにも言えるかと思っています。子育て支援のほうは、ここに書いてあることを見ていただければと思うのですが、親御さんの経済的負担をできるだけ軽減しようとか、草加の大事な給食を守っていこうとか、保育のニーズに応えていこうとか、また、子ども基金を創設して、より子ども支援、子どもに関係する子育て支援、あるいは子ども支援を迅速かつ機動的に行っていこうとか、色々なきめ細やかな様々な支援に取り組んでいこうということを掲げています。

教育と子育て支援が必ずしも分けられるものでもないかもしれませんが、教育のほうは、確かな学力と世界につながる教育ということを掲げております。大綱などを少し見ましたが、世界につながる教育というところが、もしかしたらこれまでの中にはあまりないことなのかもしれないと思っています。

具体的には、グローバル人材の育成に向けて、国際理解教育、英語教育を強化したいという思いを持っています。もちろん既にやられていますが、よりそれを明確に私としては位置付け

ていきたいなというふうな思いを私は持っております。

学習支援、補習等の機会、基礎学力の定着については、既に述べられている話かと思っております。また、獨協大学や文教大学との連携を強化したいという思いも持っております。

以上が、すごく簡単に申しますと、私の教育に関して、五大戦略として掲げた内容でございます。

もう少しお話をさせていただくと、先ほどの「だれもが幸せなまち」、それは愛される、自分は愛されている存在だと感じられる、これは自己肯定感ということであろうかと思っております。よく教育の現場で使われる言葉としては、自己肯定感という言葉は非常にしっかりとした言葉だと思っておりますが、より子どもたちにも分かりやすい言葉としては、大切だよとか、愛しているよとか、そういう言葉なのではないかなというふうに思っております。

それから、ここでは明確に言葉として述べてはおりませんが、当たり前のこととして据えていくべきだと考えているのは、やはり子どもの人権というものです。大綱にも人権ということが書かれておりますが、子どもの権利、子どもの人権、子どもの声、子どもの意見、これをしっかりと聞き届けていく。子どもが主体的に自分の生きること、自分のまちのことに関わっていくような、そういう子どもを一人の人格としてちゃんと対応していくことが大事だと思っております。

それから、これはなかなか議論になろうかとは思いますが、やはり障がいのあるお子様との、統合教育を草加市独自で目指せるのかどうかというのはあるかと思っておりますが、そこは議論をしていく必要があるかと思っております。やはり一緒の場で育っていくということが大事である。そういう議論は、この教育委員会の中でも、皆さんの間でもあるようでございますが、できるだけ進めていきたいなという思いがあります。

あと一つ、懸念しているのは、教育長との意見交換の中でもよく出てくるのですが、働き方改革によって、教員の方が、非常に微妙な表現になりますが、本当に子どもと深く関わることの制約を受けているという実態はないのであろうかということがすごく気になっています。やはり教育というのは、今やもう聖職ではないというように言う方もいらっしゃるかもしれませんが、やはり一つの人格を育てていくという現場でありますので、教員が全人格的に子どもと関わるということ、ここはそれをなくしてはいけないのではないかと私は思っております。この大きな国、文部科学省から、あるいは世の中的な流れの中で、それを草加市としてどう担保していくかというのは非常に難しい問題だなとは思いますが、やはり教育というのは全人格的な交わりだと思っております。

それから、一つ気になっているのは、これはもうざっくりばらんな意見交換で、私ももう少し事前に調べてこられればよかったのですが、学校に行かれない子を草加市としてどうフォローしていくか。フォローもされていると思いますが、もう少しそこをどうやっていったらいいのかなというのがちょっと気になってはおります。

まずは私からはこんなところでございます。

それでは、皆様からの教育にかける思いですとか、お聞かせいただければと思います。

では、順番に教育長からお願いします。

○山本好一郎教育長　それでは、今日の会議の狙いがそれぞれ教育に関して思いを述べ合って共有していくということですので、山川市長から示された思いを受けて、まず私が教育の基本的な思いとしているところを述べます。先ほど「だれもが幸せ」というお話が出ましたが、教育としても非常に重要な言葉、重要な方向性だと考えています。市民の方々がそれぞれの学びを通して自分の幸せを求めていくこと、これはもちろん重要ですが、学校教育、子ども教育に関して言えば、全ての保護者の方は、今も昔も変わらず、自分の子どもが幸せになってほしいと願っています。学校制度がなかった時代であっても、それは揺るがなかったものです。だから、これは最も基本に来る真理だと思うのです。国の制度や学校制度が整えられたから起こってきたことではなく、もともと人が子どもを育てていく中で生まれてくる、自分の子どもが幸せになってほしいという願いです。義務教育として保護者の方はみんな子どもを学校に預けていただきますので、その願いに何とでも応えていきたいということです。それから、当の子どもたちも、言葉ではなかなか言わない子どももいますが、だれもが自分はよりよくなり、よりよく在りたいと願っています。認められたいという、そういう思いを必ず持っています。ですから、学校教育、子ども教育として、それに応えていくために全力を注ぐ、自分の感覚の中では、これが全ての基盤にあると思っています。そのような思いを私自身持っていて、山川市長の示されている「だれもが」ということや、「幸せ」ということにつながりが深く、市長が就任された際にこの方向性をお聞きしたときにまず感じたことはそれです。

そして、先ほど幸せのお話がありましたが、大人であればそれぞれの幸せを自分で見いだしていきます。しかし、子どもたちの段階では、自分の幸せというものをまだ、なかなか自分で見つけることができません。保護者の方もわが子の幸せを願っているのですが、その幸せの姿というのは実は非常に多様だと思うのです。ある保護者の方は、やはり学び、勉強ができなければいけないと。ある保護者の方は、いや、そうではなくて健康第一、今の世の中、健康でなければ、良い仕事はできないと。ある保護者は、そうではなくて何と言っても心の問題だと、

みんなと協調していく力が大切だと。様々な幸せ感があって、そのような中で子どもたちは教育を受け、私たちは教育を行っているのだと思います。ですから、子どもたちにとって何が幸せにつながるのかを求め、追求していくこと、少なくとも学校教育、子ども教育はそれが重要だと思います。ただし、学校現場や私たちは、子どもたちにとっての幸せはそれぞれバラバラなので、それぞれでいいということでは済まないで、今、基本的に整理されているのは、国として生きる力ということを示しています。それは、世の中がどんなに変化していても、一人の人として自立して生きていく力を身につけさせてあげようということで、私はこの考え方に賛成です。その生きる力は知・徳・体、その3つで構成されているというのも、これは理にかなっている。学校教育、子ども教育もその生きる力、知・徳・体と昔から言われていますが、そのことに沿って進められているということは、私は、幸せ感の部分からいっても、実は理にかなっているものだと思います。ただし、どちらも、どれにも偏ってはいけない。知の、ある一部分だけを取り上げて、その子の全体を見ようとしたり、場合によっては、比較をしたりというところがなきにしもあらずです。それも場合によっては必要ですが、やはり子どもたちには誰でも、その子にしかないよさや可能性が必ずあります。ある部分だけで測定して比較したものを頼るのではなく、それぞれの子どもの持っているよさや可能性を見出し、それを伝えていって、山川市長が先ほどお話しされていましたが、自分を大切に、他の人のよさも認めること、自分への自信や意欲を持ち、社会に出ていく中で、様々な人々と協力して変化を乗り越えていく力など、そういったものを身につけさせていきたいというのが、草加の教育の理念でもあり、草加の教育はそれをとても大切にしています。私も基本に置きたいというふうに考えております。

また、山川市長から、人権のことや働き方など様々な重要なテーマが示されましたので、また後々、手を挙げて発言しますが、働き方については、山川市長のおっしゃるとおり、私も全く同感です。やはり教員は、今の時代、確かに働き方の問題、国全体の問題として、教員だけではなく、全体の働き方が大きなテーマになっていますから、その中で教育だけは別だと言うわけにいかないという流れは分かります。私たちにもかつて先生がいて、私たちもその先生のもとで教育を受けてきました。それと同じように、やはりこれからの子どもたちにも、これまでと変わらぬ教育を受けさせたい。それが何か形が違ってくるようなものになるということは、私はどうしても何としても止めなければいけないと思っています。ただ、働き方では時間的な制限がかかっていますから、いかにして先生方の教育への意欲を持続させていくのかや、時間が短くなる中でも、子どもたちに関わる時間や教育が深められる方法というものを探ってい

なければいけないので、非常に大切なテーマであることは間違いない。ですが、これを切り捨てていくと、逆に学校教育はとんでもないことになる。子どもたちに教える時間を少なくするという話は、今の自分には正直受け入れられません。ですが、そういう流れや指示もあり、それをやっていけば、結局は子どもたちが先生と関わって教わる時間が少なくなる。国全体がそういう教育をこれから目指すのだという形になったときに、私はやはりそこに従わなければならないとは思いますが、思いとしては、非常に難しいテーマですけど、働き方を軽減していくことだけではなく、その中でやはり教育を充実させていくこと、いかにして更に充実させていくかということこそ、取り組まなければならない課題だと考えています。これは、答えは出ていないことなので、山川市長が提起されたことに対する答えにはならないのですが、同じように教員が全人格的に子どもたちと関わるのが大切であり、教員の仕事というのは子どもたちの人格、これを形成する大切な仕事だということはこれからも変わらないし、変えてはいけな

- いと考えています。私からは以上です。
- 山川百合子市長 ありがとうございます。それでは、小澤教育長職務代理、お願いします。
- 小澤尚久教育長職務代理者 今、市長、教育長から大きくお話を伺えたので、私、もうちょっと具体的な部分でお話をさせていただきたいと思います。

まず、大きく1つ目として、この草加の良さというのをもっともっとアピールしていきたいなと思っています。こんなに埼玉県内でも利便性のいい土地はないと思うのです。それをもっともっと、皆さんに知ってもらっていきべきかと、そんなことを思っています。都内へのアクセスもそうですし、全国どこに行くにも便利ですし、はたまた海外に行くにしても、全国の中でも有数の便利さを持っていると自負しています。そういったところを考えると、もっともっと草加のよさを全国的にアピールしていきたいなと思っています。

それを踏まえた上で、教育の部分についてですが、草加の教育の特色と言えば、やはり何と言っても幼保小中一貫教育だと思っています。そこのところで、今までつくり上げてきたことがどんどん実になってきていると思うのです。今、私は幼稚園をやっておりますが、小学校の先生たち、また中学校の先生たちとの交流も普通のようにやらせていただいています。他の地域を聞くと、なかなかそこがうまくいっていないという、そういう話もよく聞きます。そういった中で、更に進めていくには、今、小中の人事交流が行われていますが、色々制度的に難しい部分はあると思うのですが、これを幼保と小の教員の人事交流とか、そういったことに更に深めていく、そういうことによって、草加の幼保小中一貫教育が更なる深まりを見せるかなと期待している次第です。

それから、3点目としては、先ほど市長もグローバル人材の育成に向けてというようなお話をさせていただきましたが、獨協大などの大学の力をフルに活用することとともに、高校でも外国語学科を有している高校があります。草加南高校もあるので、そういった高校の力も借りる、大学の力も借りる、それで中学校、小学校、もっと小さい時代からもというように一貫した流れができていくのかなと思います。市内のそういう人材を更に活用していくということも考えられるのかと思っております。

また、4点目ですが、先ほど市立病院の産科の再開というようなことも五大戦略の中に挙げていただきましたが、やはり安心して子どもを産んで育てられる、そういうまちというのが更なるアピールポイントにもつながっていくと思います。そののところも是非実現をしていけるとありがたいなど、そんなことを思っております。

5点目に、直接、教育というわけでもないのですが、やはりこのコロナで地域の力というのが、弱まってきてしまっているかという危惧があります。私が住んでいる地域の近くでも、町会の組織はもう休止している、防災の面だけで何とか辛うじてつながっているというような地域も増えてきています。このコロナで、そういう地域のコミュニティ力というのも下がってきてしまっている部分も、全部じゃないかもしれませんが、すごくあるかと思っております。先ほど市長もみんなでまちづくりということを基にしてということも挙げていただきましたが、ここでやはり、今弱まっている地域のつながり、地域の力を再編成や再強化していく、そういうことも必要かと、それが次の子どもたちの育成に、教育にも重大に関わっていくのではと思っております。

そして、最後に、議会の大切さはもう十分尊重した上でお願いなのですが、3月15日には中学校の卒業式がございます。議会が開会中ということで、教育長はじめ教育委員会の幹部の皆さんが直接卒業式に関われないというところがあります。今年はもうそういう日程でやむを得ないところだと思うのですが、来年度以降、是非そのところ、バッティングを防ぐというか、少しずらしていただくとか、もし可能でしたらお願いをして、みんなで中学生の門出を祝っていききたいと思っておりますので、最後にお願いとして少し心に留めておいていただければありがたいと思います。

すみません、まとまりのない話で恐縮ですが、よろしく申し上げます。以上です。

○山川百合子市長 ありがとうございます。

事務局に確認ですが、3月15日の議会日程というのは、今年はまだ入っていますか。

○青木教育総務部長 常任委員会の初日です。

○山川百合子市長 常任委員会の初日ですか、承知しました。

○加藤由美委員 3月23日には小学校の卒業式があるのですが、そこも議会の定例会が入っているのですか。

○山川百合子市長 そうなのです。申し訳ありません。今後、議会と調整をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○山川百合子市長 では、続きまして、加藤教育委員、よろしくお願いします。

○加藤由美委員 私はもう少し具体的なお話になってしまうかと思いますが、まず、12月の新聞に全国の公立小中学校の通常学級に通う児童生徒の8.8%に発達障がいの可能性があると文部科学省の調査で分かったとありました。草加市も、特別支援教育を必要とする児童生徒が年々増加傾向にあります。先日、草加市スポーツ協会が主催する放課後スポーツチャレンジの指導で、ある小学校へ行ったとき、コミュニケーションが苦手とみられる2年生のお子様が見ると、学校は敵だって言ったのですね。かなりその言葉に衝撃を受けました。様子を見てみると、学童の教室へみんな帰る際に、少し用意が遅くて、みんなに急かされながら戻っていったのですね。想像ではありますが、きっと学校では自分のペースで動くことができずに、周りから色々言われてしまって、学校は敵だということになってしまったのではないかなと思います。

教員の課題でもありますが、発達障がいへの理解、知識を深めていただき、支援を必要とする児童生徒に対応できるよう研修を重ねていくことをお願いしたいと思います。また、保護者の方々にも周知して、理解していただきたいと思います。そして、「だれもが幸せなまち 草加」の実現に向けて、予算を取っていただいて、特別支援教育を必要とする児童生徒が支援を受けられるよう支援員などを増加して、今まで以上に個々の児童生徒に応じた支援体制の強化をお願いしたいと思います。

また、スポーツ協会のお話で申し訳ないのですが、草加市スポーツ協会の試みで、この夏休みに、谷塚小学校で、外部指導者が入り水泳教室が行われるようです。協会側では、当初は草加の全児童と考えていたようですが、谷塚小学校のほうから、やはり校区外は少し難しいということで、谷塚小学校の児童だけになったようです。来年以降、ほかの学校でもこのようなことが行われると良いのではないかなと思います。将来的には、地域の方、保護者のご協力をいただきながら、監視員をつけて、プールを地域に開放できたらいいのではないかなと思っています。

それから、部活動で外部指導員を派遣するのと同じように、けがの多いと言われる体育の授

業の器械体操や柔道、また水泳などに専門の外部指導員を派遣できたらよいのではと思います。そうすることで指導者の目が増え、けがの防止、技の習得にもつながると思います。

最後に、ヤングケアラーについては、本人が気づいていないケースも考えられると思います。私たちは人を助けてあげるといことは、割と簡単に手を差し伸べやすいのですが、逆に自分の心が苦しいときに助けてということをはなかなか言えないと思うのです。自己肯定感を失うと、立ち直るのにすごく時間がかかると思います。どのように、誰にどんな言葉で助けを求めたらいいかというのを、具体的に教えてあげる必要があると思います。以上です。

○山川百合子市長 ありがとうございます。それでは、宇田川教育委員、お願いします。

○宇田川久美子委員 ありがとうございます。今回、2時間の時間を設けてくださると聞いて、本当にうれしかったです。ありがとうございます。

最初に質問したいのですが、「「子育て・教育のまち」に本気で取り組みます」の子育て支援の中で、子どもの医療費を18歳まで完全無料にしますということがあります。私も調べてみたのですが、今、全国で通院だったら就学前の12%、中学校が58%、高校までが22%。草加市は入院が無料ですね。入院だと、就学前が2%、15歳までが68%、18歳までが23%ということなのですが、市長が完全無料にするというようにうたわれた意味、どうして無料がいいのですか。

○山川百合子市長 なぜ無料がいいか。経済的な負担を軽減することは、子育てで非常に重要であると。子育ての経済的負担が大変で、そのことによって子どもの数を親御さんが考えるというような話も聞いておりますので、教育費が一番大変だとは思いますが、教育の無償化ということはやはり国がやるべきことだと思っているので、できること、できそうなことで固めたというのが一つあります。

○宇田川久美子委員 ありがとうございます。私の視点からの話ですが、例えば、これは自分が活動している中でも主張していることなのですが、例えば2007年に夕張市が経済破綻したことで、市民病院がなくなり、入院の病床が10分の1になったという現実がありますが、それでどうなったか。例えば夕張の方たちの死亡率が上がったのかといたらそうではなくて、もちろん皆さんの努力もあったと思うのですが、ないのであれば自分たちが健康でいなきゃいけない。そのこともあって医療費が劇的に減ったのです。完全無料というところ、私はすごく自立を促さない発言だと思ったのです。もちろん、入院費を無料にするってすごく素敵なことだと思うのですが、私自身が実際に患者さんに、草加でお薬をお出ししているときでも、例えばお子様が一人で病院にやってくる。塗り薬一本を持って帰るその理由は、例えばおうち

でムヒを買ったら980円だけど、自分がこうやってくれば無料だから行っておいでって言われたというお答えがあったことを考えると、まず一つ思ったのは、ずっと医療費が無料だから、何かあったら病院に行こうと思うことが、まずは病院に行くというハードルを下げる。例えば行ったことがない病院に一人で行ってらっしゃいというのは、すごくハードルが高いけど、行き慣れている場所だからハードルが低い。そして、一人で行って、無料だからといって必要でないものを持っていく。例えば、もちろん重症のものだったり、入院だったりとかの医療費の無料化ってすごく大切なことですが、本当に必要でない医療もここに関わってしまうということもすごくあると思うのですね。ですから、完全無料化ではなくて、そうするとありがたいことですが、私は自分で自分を守る、これは健康だけじゃなくて、あらゆることに言えると思うのですが、自分で自立をするというところが少しおろそかになってしまうのかと私は思っています。予防注射の無料化とかも、それはいけないではなくて、無料ではなかったら、子宮頸がんが蔓延しますといったら、それが自分に対してどのような悪影響を及ぼすかとか、多分、お母さんも調べて受けるということだけど、高い注射が小学校6年生から高校1年生であれば無料だから今のうちに行かなければとなってしまうと、なぜ受けることが必要なのかというところを考えなくなってしまう場面が日本の教育であったりとか、いろいろなところによく多いと思うので、この無料の中にも、例えば、何が軽症かは分からないが、私は今の草加市が、入院は無料だけど、通院の費用が全てかかってしまうことは確かに負担になるかもしれないが、完全無料という、負担なしというのは、少し怖いかなと思うところがあります。

あとは、私自身も、集団の中の生きにくさというのをものすごく感じて、ここまで大人になってきたので、特に、例えばSDGsの5番目でも、ジェンダー平等ということ掲げているではないですか。草加市がというよりは、日本という国自体が、例えば2021年3月の世界経済フォーラムのときに、ジェンダーギャップ指数というのが発表されているのですが、その中で日本は156か国中120位なのですね。先進国の中で最低のレベルです。このアジアという中で見ても、韓国や中国よりも下。例えば女の子、男の子だけではなくて、加藤委員が言ってくれた発達障がいとか、そういうところにも関わってくると思いますし、教育長がその子にしかない良さ、可能性ということを言ってくださいました。ものすごく限られた、この働き方改革の中で、先生たちの関わりというのは本当に大変だと思うのですが、でも、自立をするという上でも、人格を大事にするということでもすごく大切なことなのではないかと思います。私は、興味を持ってしまうと、本当にいろいろ調べてしまうので、例えば、教育長から校長試験の発表を聞いて、受検した女性の教員の数が少なくていつもがっかりします。校長試験や教

頭試験というものにトライする女性の先生の数が少ないんだと思ったときに、少し調べたのですが、OECDの諸国だと、女性の校長先生って44.6%、ほぼ半数が女性だということがあって、本当につまらないことを調べてしまうのですが、国語の教科書に出てくる物語の登場人物というのは7割が男性ということです。それがいけないことではないのですが、やはり偉人というような方たちがどうしても男性になってしまうのかなということを考えると、本当に、一番最初に掲げられた福祉、「だれ一人取り残さない」というところにも関わるとは思います、育てやすいまち草加であれば、先生たちも安心して子育てをし、管理職にもトライをしていくというところにもつながっていくというように思うので、掲げた中にはないのですが、ジェンダー平等とか自立みたいなのも考えていただけたらと思います。

先日、ニュースで、今のこの日本で1日に受ける情報量というのは、平安時代の一生分、江戸時代の1年分と言っていました。コロナ禍などで、リモートが当たり前になってしまうと、その情報がどこから来るかという、パソコンやスマホからということが圧倒的に多くて、そうなる、その情報量の中で何が大事かという、本当に市長が言ってくれた自分自身の存在という、唯一無二というところがきちんと理解できていないと、たくさんの情報を処理しきれないことになっていくのではないかなとすごく思っています。ですから、具体的に何をしたらというように提案はできないのですが、まずは一人ひとりを大事にするという教育、それをしていけたら、していくお手伝いのできたらと思っています。ありがとうございます。

○山川百合子市長 ありがとうございます。それでは、続いて、川井委員、お願いします。

○川井かすみ委員 ほぼ皆さんがご存じかなと思うのですが、私の小学校4年生の下の息子は、難病のアンジェルマン症候群という染色体15番の突然変異で、今は越谷特別支援学校に行っています。全部説明するととても大変なのですが、重度の知的障がいがあり、歩行困難や食事一口サイズにしないと食べられない、両手、下肢も不自由という状態なのですが、例えば特別支援学校の校長先生や、支援室の室長とお話しをしたときに、特別支援学校に来ているお子様たちが地域の学校に全員行けたら、それが本来の共生社会であり、それがもうインクルーシブ教育の最終目的だよねと話したことがあるのですが、まだ本当にそれが何十年先になるか分かりませんが、本当に特別支援学校を必要としない、誰もが地域の学校に行ける学校ってできたらいいな、なんて思っていたら先週こんな発表がありました。読み上げます。「通常学級に在籍する障がいのある児童生徒への支援の在り方について検討する文部科学省の専門家会議というのがあって、その会議で文部科学省から、特別支援学校を含めた2校以上の学校を共生教育推進学校（仮称）として一体化するモデル事業の実施を検討する報告書の素案が提出され

ました。その素案には、文部科学省が推進しようとしているインクルーシブ教育について、一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びの場を整理しつつ、どの場であっても障がいがある児童生徒と障がいのない児童生徒が可能な限り共に学ぶ環境を整えるものであると考えると定義し、その上で、特別支援学校の現状について、例えば年に一、二回、文化祭などで地域の小中学生と交流するにとどまっていた十分ではない状況が見られる」と指摘されました。

実際に、私の息子も特別支援学校に通っていて、ちょうど先週、草加小学校に支援籍学習で、4年生と一緒に交流したのですが、その支援籍学習についても年3回という決まりがあって、十分な交流とは言えない状況です。こうした状況を改善するために、文部科学省が特別支援学校と小中高等学校のいずれかを、例えば共生教育推進学校（仮称）として一体化する制度設計を念頭に置いた取組を進めることが必要とし、この取組によって一つの新たな可能性を示すべきと提言し、知的障がいを対象にした通級指導についても、この共生教育推進学校の中で実現するとしているという発表がされたそうです。専門の会議の中で、専門家からは、やはり共生教育推進学校について、この用語でいいのか、この学校名でいいのか、同じ敷地内であってもやっていることは別々というのでは意味がないとか、あとは、共生教育推進学校だけが共生社会を行うことになってしまうのではないかという意見もあったそうですが、更にインクルーシブ教育を推進していくなれば、やはりそのためには管理職をはじめとする教職員、並びに障がいのない児童生徒に対し、障がいの特性、障がいに対する理解を深める取組や更なる交流を増やすことが必要なんじゃないかなと思います。

さらに、令和6年から9年度の第四次草加市教育振興基本計画の素案にもあるように、草加っ子の育成のために自己肯定感、自己有用感、自分自身を好きになり、そして愛する、愛されるのはもちろんのこと、他者理解に関しても取組を更に充実したものにしていけたらなと思っています。私からは以上でございます。

○山川百合子市長 ありがとうございます。それでは、峰崎委員、お願いします。

○峰崎隆司委員 私は先ほど市長のお話の中で幸せということの定義、かけがえのない存在であるとか、社会の一員として育っていく、可能性が最大限に開花できるというお話を受けまして、そのとおりだなと思いました。これは教育の現場でいうと、今、川井委員もお話をしていたように、自己肯定感であるとか自己有用感という言葉に置き換えられるかなと思うのですが、もっと現場の学校の教室などの場面で考えると、子どもたち一人ひとりの達成感といいますか、例えば子どもができたとか、分かったとってうれしい顔をする表情を見て、教員も働く喜びを感じるというのがほとんどではないかな。そのために、教員というのは全力で、日々、取り

組んできましたし、今もそういう教員がほとんどだと思っています。そのことにやはり力を注ぎたいと考えているわけなのですが、国や県等の方向として、今、働き方改革ということが言われて、教育長からの話もありましたが、時間のことがばかりが優先してしまうと、市長もおっしゃっていたように、時間的な制約、子どもたちに関わる時間がどんどん削られていってしまうというようなことを一番危惧してしまっていて、このことは、今の私の中では一番の関心事だと思いますか、心配事です。それをどうしたらいいのか、教育の質や子どもたちと触れ合う時間を減らさないで、しかも教員の負担を減らしていく、軽減していくということについて言うと、やはりお金のことになってしまいますが、補助する人材とか、そういう人たちの確保をしていただくことが大事で、今、草加市では、それを補うための学習支援員であるとか、学級支援員、それから補助員等を配置していただいております。私も学校にいたときに、こういう方たちがいろいろ入ってくると、学校の中は混乱するのではないかなと最初は思いました。例えば勤務時間も違いますし、役目も違うので、先生方の理解も難しいのではないかと、いろいろ心配をしたのですが、実際にそういう方が配置されると、教員の負担もすごく軽減されましたし、非常に有効です。ですから、今もつけていただいている支援員や補助員は、是非数を減らさず、引き続き配置していただくと助かりますので、それはお願いしたいなと思います。

それから、もう一つ心配しているのは不登校といじめの対策のことです。不登校は、やはり学校にいろいろな理由で来られない子どもたちが多くいる訳なのですが、例えば担任がそういう子どもたちに会いに行くとか、家庭訪問するという、そういう時間もなかなか取れないのが現状です。ですから、それも含めて先ほどの支援員や、学校で教員が行う事務というのは相当な量がありまして、少しずつ軽減されてはきてはいるのですが、非常にそういう時間が多くて、放課後に事務仕事をやったりしています。何より一番重要なのは教材研究、授業の準備ですので、それをやった上での事務仕事になってしまうので、そういうところの軽減も措置していただくと大変助かります。

また、いじめについては、文部科学省から警察との連携もしっかりやれというような通知が2、3日前にあったようですが、そういうものも含めて、市長部局ともこれからは連携をしていく必要があって、その中には、総合教育会議も位置付けられているように聞いておりますので、今後はそういうことでの情報交換も是非必要なのかなと思います。

もう一つは、草加の教育の特色です。子ども教育の連携・推進というのは、引き続き、これは重点的に行っていく必要があるなと思っています。その中で、家庭教育の充実ということ、保護者を直接教育するような場面、家庭教育のアドバイザー等も活用はしていますが、その辺

も大事なのかなと思います。例えば小澤委員のところの幼稚園等に入園してくる保護者や、小学校の保護者を見ている、なかなか私たちが育った頃の常識的なことが通じなかったり、基本的なことがよく分かっていない保護者の方もいらっしゃると思うので、そういう意味での家庭教育というのも非常に大事かと思っています。今、例えば3世代で住んでいる家というのは非常に少なくなっていますから、おじいちゃんやおばあちゃんが子どもたち、あるいは孫を教えるという場面も少ないので、何かそういう機会がない親御さん、知らないからできないというのもあると思うのですが、そういう親御さんが増えているようにも思いますので、そういう意味での家庭教育の充実を是非引き続きやっていきたいなと思います。

最後になりますが、市長はこれまで国や県の議員もやっておられたので、是非国や県への働きかけや支援のお願い等もアピールしていただければありがたいなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○山川百合子市長 ありがとうございます。それぞれのご意見いただきまして、この後は少し意見交換をしていきたいと思っています。

その前に少し休憩を入れたいと思います。

(休 憩)

○山川百合子市長 休憩前に引き続いて、意見交換をさせていただきたいと思っています。

それぞれ皆様からお話をいただいて、思いを伺えました。ありがとうございます。もしかしたら皆様の間では、普段の会議などでもう既に色々と意見を交換されていることではないかと思うのですが、色々と多岐にわたっている中で、重複しているものを中心に少しポイントを絞った意見交換をさせていただければと思います。

1点目は、私も大綱のまとめのところに目を通してまいりましたが、そこにグローバル人材の育成ということは明確に入っていないかと思っています。それについて、小澤委員さんからはそのことに触れられていたと思いますが、私は五大戦略の中でも掲げたこともありますし、今の時代、もういわゆるグローバルは当たり前でありまして、やはり私は子どもが本当に生き生きと生きていく、教育長がおっしゃられた生きる力、これは国が挙げて、まさにその生きる力を育むに当たって、世界が多様性で満ちているのだということ、今、自分がいるこの社会、自分がいるここが全てではないということ子どもたちが早い段階で知るということは、子どもたちの可能性を広げていくためにはものすごく大事だと思っています。どうしても小さい社

会にいと、その社会の中にはまっていることが大事で飛び出さない、そこにその中にはまってさえいれば安泰。安泰とは言わないが安心というように、自分の可能性を広げるのではなく、自分を枠の中にはめておくというようになってしまう。特に日本というのはそういう傾向が強いのではないかと思うのです。私は、海外へ行かせていただいたこともありまして、つくづく感じたのです。ですから、やはり世界は多様性に満ちているということ、柔軟な子どもたちが肌感覚として分かるということはとても大事なのではないかと私は思っています。

グローバル人材を輩出していくために、草加の教育、小さい頃からですが、いろいろな意味で国際社会に触れるという、多様な価値観に触れるということ、大事にしていきたいと思いますが、それについて何か自由にフリートークで手を挙げていただいてもいいですが、お伺いできることがあればお願いいたします。教育長、お願いします。

○山本好一郎教育長 山川市長は国際化、世界につながるということを伝えられていました。私も整理しましたが、一つはやはりこれからの子どもたちは、世界、社会ともさらに今まで以上につながっていくこととなります。今も、以前に比べれば、世界というものに子どもたちは接していて、つながりたいという思いもあり、つながることも求められる、そういう時代に今の子どもたちは生まれてきました。英語をはじめ伝えていく力、そういったものを育成することは、私が育った時代とは違う世界に生きていく子どもたちの幸せにもつながると考えます。

どういう方法でということになると、英語に関しては、これは指導面の英語教育そのものを改善していくこととなりますが、さらに大きな概念として、子どもたちが自分の考えを持つこと、それから、積極的にほかの人とコミュニケーションをとって、伝え合うということが、これまで以上に大切になると思います。日常的に、学校の中でもいろいろな地域の中でも、みんなが共に学ぶ一緒に何かをやる。当たり前のようなことですが、そういったことに今まで以上の価値を置き、大切にしていくということも国際化、国際人材を育む基盤になるのではないかと考えます。

それから、今、山川市長から、世界が多様性に満ちているということを知るといってお話がありましたが、私は、この多様ということが非常に重要なキーワードだと思っています。少し概念は違いますが、例えば個々の発達のことですとか、それぞれの子どもたちが持つ持ち味、個性の違いがあり、それぞれのよさというものがあります。こういった価値での理解というものが基盤にないと、単に世界が違っているとって、そこへ飛び出していっても、やはり本当の多様ということは分からないと思うのです。だから、同時にやるべきことは、インクルーシブ。これは本来の概念としてだけではなくて、子どもたちに発達段階に応じて、互いのそれぞれの

違いをよさとして理解させていくということが同時に必要になるというのが、国際化や世界の多様性ということに関する考えです。

インクルーシブについて、基本は子どもや人はみんな多様なのだということ。その概念が本当に子どもたちに実感として分かること、みんな理解できることが大切です。先ほど委員からもありましたが、そういう意味でも他者理解や、誰もがほかの子どもたちと違いがあるということ、違いは誰でもあるということ。この当たり前のようなことを受け入れるというか、よさとして捉えていくということが、今まで以上に必要になるということが一つ。あとは、インクルーシブに関して、環境を整えていくということが重要になると考えています。

少し話が飛んでしまいましたが、私はこの多様ということは様々な面で非常に重要なキーワードだと思っていて、国際化ということで、世界につながっていく子どもたちを育てていく上で、この多様というものを子どもたちに本当に理解してほしいという願いを持っています。以上です。

○山川百合子市長 ありがとうございます。峰崎委員、お願いします。

○峰崎隆司委員 今のことに関連してなのですが、確かに草加市の教育大綱の中にはグローバル化ということは出てこないですね。ただ、第三次教育振興基本計画の65ページのところに、施策の方向の中で、グローバル化に対応した児童生徒の育成ということが述べられています。上段の施策の方向の一番後ろの方です。具体的な施策としては、66ページのところで、上から5つ目のところに、小学校外国語活動、中学校英語教育の充実ということで、そこに教員の研修であるとか、それから、直接は、例えば獨協大学に協力をお願いして英検の受検についてのお手伝いをさせていただいたとか、それから、ALTの配置についても、また直接雇用を、今回、7人から11人に増やしていただくとか、そういうことで措置をしておりますので、この辺が関わってくるのかなと思います。グローバル化ということでは、そういうところにこれまでも力を注いできたのかなというふうに思っています。グローバル人材という言葉とは少し違うのかもしれませんが、その一環に関わっている部分はここの部分かと思います。

○山川百合子市長 ありがとうございます。川井委員、お願いします。

○川井かすみ委員 私は、いろいろな学校を訪問させていただいて、特別支援学級の授業を拝見させていただいているのですが、気付いたことが、各小中学校に日本人学校を経験した先生が何人かいらっしゃったのですね。例えば実際に日本人学校に行かれていた先生が、これ、ベルリンの壁の一部だよとか、ヨーロッパのユーロという通貨だよとか、あとは世界地図を日本で買うと、日本が絶対真ん中なのです。でも、ヨーロッパやアメリカで買うと、買った地域

が真ん中で、例えば私は以前モスクワに住んでいたのですが、モスクワで買う世界地図はモスクワが真ん中にあるのです。日本はずっと端っこにあるのです。だから、そういった地図を校長室の前に飾ってあったりとか、そういったところでは、先生たちの自分の経験というのを子どもたちに伝えたりという場面があったので、それはすばらしい取組だと思いました。

あと、もう一つが、先週私の息子が支援籍学習で草加小学校に行ったのですが、参加したのが英語の授業だったのです。日本語も分からない私の息子が英語の授業に参加する。日本語も英語も通じない、何も分からない中ですが、この3回の支援籍学習を体験した中で、一番喜んだのが英語の授業だったのです。これは不思議でした。なぜかと思ったら、子どもたちが楽しそうにジェスチャーをして、チームになってやり取りをしたり、英語でダンスをしている姿を見て、それを見て息子はすごく喜んだのですね。楽しいと。だから、それを見て、逆に子どもたちが、楽しんでくれているのだと思って、日本語も英語も通じないうちの息子に対して、一緒にやろうよと。一緒に、特別支援学校の先生も一緒にいらっしゃるのですが、レフト、ライトとか言って、子どもと右向いたり左向いたりすると、それだけでうちの息子は喜ぶのです。今まで、体操や音楽の授業なども一緒に参加させていただいたのですが、一番喜んだのは英語の授業だったのです。これは、すごく意外だなと思いました。絶対、私的にも、やはり親的にも、英語の授業なんて、日本語が分からないのに無理と思ってしまっていたのが、全然逆だったのです。ですから、そういったところで、英語だけではなく、やはりお互いに通じ合う、お互いに一緒に楽しむ場所があるというのは、やはり英語に限らず素晴らしい経験、素晴らしい交流なのだと思いました。つい私も、英語なんて無理よなんて思っていたのが、一番そうではなかったもので、特別支援学校の先生も一番驚いていました。感覚的に、英語の授業って難しいので無理ですと今までだったら断っていたのが、少しやってみようかという思いから体験させたら、こんなに喜ぶとは思わなかったもので、やはりいろいろな体験をさせる、いろいろな交流をさせるということがいかに大事かということ、この間の支援籍学習で実感しました。

○山川百合子市長 いろいろなものに触れるということ、そしてそこでコミュニケーション、人と人がつながる感覚というのですかね、そういうことが大事だということですね。小澤委員、どうぞ。

○小澤尚久教育長職務代理者 本来だったら、うちの幼稚園でも、他の市内の幼稚園、こども園でもかなり取り入れているのですが、やはり英語の触れ合いというのを、時間というのを取っているところが多くあります。というのは、決して語学を身につけようというのではなくて、

先ほどから皆さんが挙げていただいているように、国際的な感覚の素地というか、国際理解教育の素地というか、そういったものを育てていこうという、そういう意図でやっています。

川井委員から先ほどありましたが、やはり外国人ティーチャーが来て、「ハイ」ってやって、「グッドモーニング」と言うと、みんなが一斉に大きな声でそれに応えようとするのです。ただ、その中で、やはり人見知りの子は、更に後ろに下がってしまうというのが最初にあります。そういう経験をだんだん重ねていくうちに少しずつ安心してきて、こういう先生もいるのだとか、日本人だけじゃなくて、いろいろな国があるのだというのを少しずつ体験してその場の安心感が出てくると、だんだん自分を出せるようになってきます。そういういろいろな経験という意味で、国際理解の素地を育てるという意味で英語のレッスンの時間というのは、うちでは週に20分程度なのですが、各クラスで、そのところが大変役立っているなど、そんなことを感じます。その先生が来ると、普段、会ったときも、「ハイ、エバン」とかって子どもたちから声がかかったり、その先生も気さくに「ハイ」って声をかけて、そういったいい関係作りが行われ、次へ、小学校へつながっていくといいなと思っています。

○山川百合子市長 ありがとうございます。加藤委員、どうぞ。

○加藤由美委員 東京オリンピックが無観客になったことは本当に残念で、やはり観客が来れば、いろいろな海外の人がたくさん来たので、そこで色々な国の方を見て、いろいろなことを感じられたのではないかなと思います。そういう場面を作ることが本当に大事だと思うのですが、例えばALTの先生の母国と、今、リモートなどができますので、時差がある国だと大変かもしれませんが、現場とリモートで子どもたちとつながり、その国の紹介をしていただいたりできるのではないかと思います。

海外へ試合に行く体操の選手たちも、英語を話せるわけではないのですが、何か通じているんですね。それはジェスチャーで会話ができてしまうということが多いので、子どもたちもジェスチャーから始まり、それで言葉を覚えたいなというように思えたらいいのかなと思います。

○山川百合子市長 そうですね。まさにそのとおりだと思います。結局、心を通わせるということが言葉を覚えることの意味でとか、言葉は目的でなく手段でありますから、やはりおっしゃられるとおりだと思います。

ついこの間、時間がないので逸れてはいけませんが、手話言語条例の一周年ということで、手話が言語だということを伝えるイベントがあったのですが、そこで手話で歌を歌って、それがまさにジェスチャーですよ、手話です。私たちから見るとジェスチャーですが、この手話でこそ伝わる思いというのが、これは本当に手話は言語だと私も実感しました。

そうしますと、峰崎委員に言っていただいたように、この基本計画の中にもありますよという事で、提起はされているとは思いますが、この国際理解教育とか、グローバル人材育成とか、あるいはグローバル化という言葉、大綱のメインのところに入れていくかということは、今後、ちょっと議論させていただければなというのは私の思いではあります。事務局はどうか分かりませんが、少し思いはありますので、一つ提起をさせていただければと思います。

宇田川委員、どうぞ。

○宇田川久美子委員 グローバル化のお話を続けても大丈夫ですか。何年か前に、小学校の英語教育の研究発表を見せてもらったときに、すごいものを見せてもらったなと思ったのですが、多分、日本語というのは形容詞もたくさんあって、ボディランゲージをしなくても伝わってしまう言語体系なのかなとそのときは思ったのですが、やはり小学校の子たちが、自分たちが持っているボキャブラリーで、多分、先生の指導もあったと思うんですけど、「Really」とか、「Oh」とか、手とか体を使うということもして表現してくれているを見て、日本語だけではない言語を使うことで、今、おっしゃったみたいなジェスチャーであったりとか、そういうところも使うということを知り、表現の仕方というのはこういうこともあるのかということの子供たちが体得できているのがすごいなと思いましたし、市長がおっしゃったとおり、今、自分がいるフィールドだけが全てではなくて、本当に世界が多様ということをしかりと俯瞰することができれば、さっき申し上げたジェンダーであったりとか、いろいろなところについての受入れということも自分でできていくと思ったのですが、この基本計画の中の7ページに、情報化社会とグローバル化の推進というところがあって、この情報化社会とグローバル化というところが一対みたいな形になっていると、さっき申し上げたとおり、平安時代の一生分の情報を私たち一日で入れているよというところだと、本当に自己という確立をしかりしていけないと、多分、グローバル化ということだけ考えると、自分というものがなくて世界に飲まれてしまうというか、すごくそう思うので、その前にまずは自己確立というところをしかりとしていかなければいけないと思いました。

○山川百合子市長 ありがとうございます。それでは、皆さんの中で、それぞれ意見を出していただいた中で、この視点についてもう少し意見交換を更に進めたいというものがございましたら言っていただければと思うのですが。

今日は思いを共有するというのが目標でありますので、皆さんのお話を聞いていると、やはり一人ひとりが大事に、子ども教育だけじゃないですが、子ども教育に特化しているところがあろうかと思いますが、一人ひとりの子どもが本当に人として、個人として大切な存在な

のだ、愛される存在なのだ、かけがえのない存在なのだということを一人ひとりが本当に感じ取れる。自分も大事にするし、他者をも大事にする。そういう草加の教育にしていきたいという思いは、ここにいらっしゃる委員さんみんな、全てに共通していらっしゃる。具体的なことについては色々ありますが、その大元はそういうことなのかなとお話を聞いていて思いました。

皆さんのお話からそういうふうに捉えておりますので、そういうことだと思うのですが、では、それをどうやって実現していくかというのが、具体的にこういう大綱や基本計画にも落とされているのだと思うのですが、一つ、少し気になっていて、ここでちょっと答えは全然出ないですが、働き方改革の話です。この問題というのは、教育現場としてもどういうふうに対処していこうという、答えはないでしょうが、先生方の間で何かあるのでしょうか。

○山本好一郎教育長 これは非常に難しい問題であります。私ども教育委員会の中で、これは課題だということが分かったとしても、先ほどから出ていますように、やはり国と県が、一つは国の、文部科学大臣の指針というのが出ていまして、働き方改革について全国的な方向性を持って動いている。そのことは置いておく、それは関係ないというわけには当然いかないわけです。一つ言えることは、教員の働き方というものが非常に特殊とされますが、しかしその中でこれまでの教育が成り立ってきたということがあります。これまでも、教員がある一定の時間をかけて授業のための準備をしたり、子どもたちと関わる時間を持ったりして、初めてよい教育が成り立ってきたのだということを、多くの方に分かっていただくということは改めてしなければならぬと思います。しかし、そのことの伝え方は非常に難しく、なかなか答えが見えないというところがあります。

○山川百合子市長 そうですね。人の配置があれば有効ということで、重々承知しています。片側でそれをどんどん増やしていかれるような予算措置が市の財政としてできるかということは、真剣に取り組まなければならないことでありまして、ここは全庁的に、また市民も巻き込んで、先ほど宇田川委員から最初にご指摘いただいた医療費の無料化はどうなのだという、そのご指摘は片側で私はごもっともだと思っています。財政をどういうふうに配分していくかというのはものすごく大事なところでありまして、草加市の財政もかなり厳しいということは、私、正直ここに来て直面しています。そのことは市民の皆さんに共有されていないと思うのです。ですから、そういうことも含めて、やはり財政をどこに配分していくかということは極めて重要なことだと、人が人を育てていくので、草加市の財政をどこに集中的に特化していくかということは非常に重要な問題でありますので、皆さんともっとざっくばらんに意見交換しながら、こういうことを進めていかれたらいいなと思っています。

○山本好一郎教育長 やはり根本は、先ほど申した県や国の考え方になるので、私どもも教育長会議とか、集まる中で意見を伝え合う場があるのですが、もう少し国に届くようになれば良いと思います。少し専門的な話になってしまいますが、標準授業時数というものがあるのです。これまでは、標準授業時数以外の時間もちゃんと設けて、余裕を作って、教育活動を進めていたわけです。働き方改革を進める手立ての一つとして、その余裕の時間も切りつめていくという考え方が県から示されているのです。要するにできる限り指導時間は削って、標準授業時数でできるだけ組み立てていきなさいと。これは県も国も言っています。そうすると、どういうことが起こるかという、恐らくは短縮、要するに半日で子どもたちが帰るという時間が今までよりも多くなるでしょう。つまり子どもと関わらなくなる時間が増えるのです。それはおかしいというのが自分の考えなのですが、それはここで言っても仕方がないですが、やはり、県がそういうふうに伝えてくれているということは何か考えがあるのだと思うのです。それでもいいのだという。つまり子どもと接しなくても、それはもうこれからの教育はそれでいいのだという、その辺のところは少し理解できないのです。市長が県知事などと話をするときに話題が出るか分かりませんが、やはり働き方改革というのは、単純に授業時数を低減していくことで、教員の負担軽減としてはそれでいいかもしれない。でも、同時に教員の使命感とか、そういったものを、そのような方法で高めていくことはかなり難しいのです。やはり子どもが置き去りにされていないかということは、常に問題意識を持たなければいけないと思っています。市の教育委員会だけでどうなるということはないと思いますが、問題意識はきちっと持っていますので、ただ、国や県が言ったことをそのまま伝えて、削減しなさいということをしていくつもりはない。ただ、やはりそれは伝えなければならぬので、子どもたちの教育というものがより充実していくようにという投げかけをしていくということが大事だと考えています。

○山川百合子市長 ありがとうございます。これは心して、明日、県の「ふれあい訪問」事業で知事が草加にいらっしゃるので、時間があるかどうか分かりませんが、少し懇親の機会もあると思いますので、心してその話題を振ってみたいと思います。

○山本好一郎教育長 ありがとうございます。

○加藤由美委員 少し話がずれるかもしれませんが、私、教育委員になる前は、本当に普通の主婦で母でありまして、教育委員会に入って初めて草加市の取組ということを知りました。教育委員会に入らなければ全く興味もなく知らなかったことだと思うのです。これを教育委員会の取組、先生方の取組をいかにご家庭、保護者の皆様、地域の皆様に、本当に周知していただく、協力していただくことが、やはり働き方改革へのことにもつながっていくのかなと思います。

ます。

保護者の方と接することも多くて言い方は悪いのですが、こういう子どもがいるのだけど、先生は何もしてくれない、あの先生を何とかしてほしいということも聞くのですね。そういう声ではなく、こういう子がいるのだけど、私たちに協力できることは何かありますかという声が、保護者の方から聞けたら、それが一番いいのではないかと思います。そうすると、先生への信頼関係とかもできて、先生の負担も軽くなるのではないかと思います。

○山川百合子市長 ありがとうございます。今のご指摘は私もすごく重要だと思って、今伺って2つあると思うのですね。1つは、市民が色々なことを知らない。市民に伝えられていない。これはすごく行政側の課題。単純に広報という言葉もありますが、それだけではなくてやはり伝えていく、ご理解いただくために伝えていくというありようですね。それに課題があると思います。

私、五大戦略の中で対話を大事にしたいということ、会話によってこの草加のまちづくりを進めていきたいということがありまして、まさに今おっしゃられたことはそういうことだと思うのです。情報が届いていないということ。だから、対話の機会を増やしていきたい。それは、ただ、私だけではなくて、市の職員も忙しいのですが、市の職員も対話を大事にしてもらいたいですし、本当に関わってくださっている皆さんには対話の機会をいろいろな形で設けていただくこともやっていきたいと思います。

もう一つは、やはりおっしゃられたとおり、何かをしてじゃなくて、私たちがやろうよっていう、そういう主体的な、宇田川委員さんが自己確立しておっしゃっていたことにつながっていくのだと思うのですが、やはり自己確立していないと、自立した市民とおっしゃったかな。自立していないと、なかなか主体的に自分がやろうというふうにならないということですね。さっき一番初めに読んだみんなでまちづくり自治基本条例の前文には、それが述べられているのですね。市民の、市民による、市民のためのというのは、これは独立宣言をなぞったものではあろうかとは推測しますが、本当に自立した市民が、やってもらうのではなくて自分たちでやるというところに立つようなまちづくりにしていきたいと思っています。是非一緒によろしくお願いいたします。

あと、十数分ですが、いろいろ本当にご指摘いただきましたが、一つ、何人かの方がおっしゃった、教育長もおっしゃっていたインクルーシブ教育ですね。インクルーシブ。これは国のほうもこういうふうに語られ、インクルーシブという方向に、これ、結構、せめぎ合いがあるのではないかと私は少し感覚的には捉えているのですが、政治家の中でもそれを進めていき

いということと、現場は、そうは言ったってみたいなどころもあると思います。草加市だけで単独でというのは少し大変な、難しい面もあろうかとも思いますが、その辺、何か草加市ではありますか。

○山本好一郎教育長 私はやはり全ての子どもが、どの子どもたちも自分の市の地域の学校で学んでいくこと、これは当然だと思いますし、それは進めるべきだと思います。ただ、思いはそうですが、そのための環境整備というのはそれぞれ多様なので、いろいろな条件をクリアしていかなければなりません。今も、個々のニーズに対応できるよう努めていますが、いろいろな条件があるからそれはできませんではなく、一つひとつクリアして、進めていくことが大事だと思います。

あともう一つは、先ほど少し触れたのですが、やはりインクルーシブ教育という、例えば発達のこと、発達障がいという言葉が使われています。実際に、やはり支援がなければ学びが進まないというお子さんもいらっしゃるの事実で、そのことは押さえなければなりません。そこを押さえた上で、原点はやはり子どもたち一人ひとり、みんなそれぞれ違って、みんなそれぞれの課題があって、みんな乗り越えなきゃいけないものがあるということの、いわゆる、そこはみな同じであるという見方が大切だと思っています。そのことがない限りは、いつまでたっても発達障がいの子どもへの教育という限定的なものになってしまうのではないのでしょうか。個別の支援は必要だと思います。ですが、発達障がいではない子どもとの境界というのはどこなのか。例えばA君、B君、こちらは発達障がいでA君は違う。私はそういう見方は違うと思うのです。やはり、全ての子どもたちの発達に違いあるのは当たり前ですから。同じ年に生まれた子どもでも、それぞれの子どもの発達、育ちには違いがあります。それは幼稚園、保育園で見ていただいて、それを小学校で受け入れる。その違いを前提として、一人ひとりの育ちを支援していくというところに、幼保小中を一貫した教育の一つの大事な考え方があるわけです。やはりインクルーシブの、もう一方の部分で、障がいのあるなしでなく、全ての子どもたちは多様で違いがある、このことを相当しっかりと先生方や子どもたちも、保護者も含めて理解していただくことです。今、そこまで完全にできているかとは、私は思っていないで、それはすごく大切な目標だと思っています。それは、一人ひとりを大切にすることにも当然つながるし、みんな、つながっていくところなのです。インクルーシブを進めていくということは、一人ひとりを大切にすることと極めて関連が深い。それから他者理解。これとも極めて結びつきが強い。だから、分離するものではなく、理念としてはやはり同じ。その中で、大きく捉えたインクルーシブの考え方は当然除けないと思います。

それは、私は今、一人で言っていますが、委員さんからも、色々なお話を伺っていただいと、そう考えています。

○小澤尚久教育長職務代理者 小さい子どもたち、幼稚園でも、何かあったときに、この子は困った子というのではなくて、何々さんは、今、このことについて勉強中なのだというお話をしています。みんな、得意なことがあって、足が速い子もいれば、文字を書くのが好きな子もいれば、絵を描くのが上手な子もいれば、みんな、得意なことがあるのだけど、でも、みんな、これから頑張っていかなきゃいけないこともあるね、みんな、違いがあるねということを知りやすく教えていって、それで、その場その場で指導をしていっています。そのことによって、何々さんがまたやったというのではなくて、何々さん、少し一緒にここで本を読もうねと声をかけてみたりだとか、何々ちゃん速いから、走るのを教えてよとかってなったりだとか、やはりその子その子の得意なところをみんなが認めつつ、また、じゃ、ここは頑張っていこうねというところもみんなが認めつつ、それで育っていくという、そういうところを、今、大事にしていきたいなと思っています。それがやはりインクルーシブ教育につながっていくことかなって思います。

○峰崎隆司委員 今のインクルーシブに関連して、草加の施策のほうでは74ページのところの多様なニーズに対応した教育と支援の充実の中で述べられています。それから、3つ目の段落のところ、ノーマライゼーションの理念に基づいて共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の構築ということで述べています。ここでは、特別支援教育の関連でのインクルーシブ教育ということになっていますが、もう少し大きく捉えていく必要も、今後、あるのかなというふうには思っています。

○山川百合子市長 そうですね。ありがとうございます。

○川井かすみ委員 具体的な例をお話しすると、直接の病名はちょっと伏せていただいて、今までは一向に問題がなかったお子様が地域にいらっしゃって、病気でだんだん歩けなくなってきた。少し車椅子を利用するようになって、でも、車椅子で対応しているのですが、学校に、車椅子から乗せ替えて座ってそのままリフトがある学校もあるので、それに対応。でも、お子様も成長するし、あとは病気がどんどん進行していくということで、それにすら乗せるのも厳しくなってきたと。今、その学校が対応を考えられているのは、今までは乗せ替えて上に上がっていったのですが、車椅子ごと上に上がったらほかの教室に行けるよねというので、そこを学校が導入を考える。

あとは、たん吸引の必要なというお子様も、実は草加市にいらっしゃって、そのお子様には

看護師の方がいらっしゃっていて、たん吸引していただいている。それによって、お母さんは少し家でお休みの時間ができるというので、人件費や、昇降機をつける予算が必要というところはありますが、そういったところで大分理解というのは進んできているのかなど。その子の、教頭先生が実際に越谷特別支援学校に行き、こういったお子様にはどういった対応をしたらいいですかとか、校長先生が自ら特別支援学校に行き、こういうお子様の支援の仕方とか、どうしたらいいのですかとか、実際に行かされているケースもあるのですね。ただ、そういったお話を聞くと、やはり文面上だけじゃなくて、大分現場としてもインクルーシブ教育というのが少しずつ実現しつつあるのかなど。ただ、そこで予算とか人件費とかがすごく必要になるかと思うのですが、そういったところも、私が学校訪問をさせていただいて、実際に見ていいねって、そういった足が不自由なお子様のために、学校もそうだし、周りのお友達も助けてあげたりとか、そういうのって素晴らしいなって。こうやって少しずつやはりインクルーシブ教育が浸透している証拠なのだなと。

それから、越谷特別支援学校の校長先生に言われたのは、草加市ってすごいよねって言われたのです。何ですかと言ったら、全学校に特別支援学級があるし、ましてや支援籍学習で受け入れてくれるよねと。逆に疑問になったのですが、受け入れるのって当たり前ではないかと思ったのですが、詳しく伺うと、支援籍学習で、こういったお子様が地域にいらっしゃるのでどうですかという、車椅子対応ができないので申し訳ないけど断られるケースがいまだにあると聞いて、少しびっくりしたのですね。そういった点では、草加市というのはやはりインクルーシブ教育の理解が進んでいるのかなということを実感はできる部分もありました。

○山川百合子市長 ありがとうございます。もう時間もやってまいりましたので、簡単にまとめさせていただければと思うのですが、今日はいろいろとご意見、思いをいただいて、共通しているなと思うのは、やはり草加の教育機関では一人ひとりを本当に大事にする、かけがえない存在として、その子ども自身の可能性を最大限に広げていく、そういう教育をしていくということは、皆さんの共通の思いであるというふうに思います。また、多様性を尊重する、また、グローバル化の中ではありますが、世界に向けても、そして足元でもその可能性を尊重して、インクルーシブって繰り返し使っていましたが、インクルーシブな教育を推進していくところを皆さんが思っていらっしゃると思います。自分を愛するように他者も大事にするということも、また出た言葉ではないかなと思います。

それから、表現と、言葉の中にあって、本当に大事だなと思うのは、現状を市民の皆さん、草加市民、25万人市民、皆さんに知っていただくことと、皆さんにも協力いただくこと、そ

れから、私たちがというか、今、草加で行っているいい点もちゃんと理解していただくということ、自立的に協力いただくということはすごく大事ななと思いました。

今日は第1回をさせていただいたのですが、回数に制限はないと聞いていまして、もし皆さんがよければ、特に今後、この大綱の見直しが入ってきますので、皆さんはいつも会議をやられているとは思いますが、それもどこまでの回数かというのはあるかと思いますが、是非皆さんと意見交換をさせていただいて、最初に出ていた行政とタイアップしてということも大事だという意見も出ていると思いますので、そういうことをしっかりと形にしていくように目指していくことについてはご理解いただけますでしょうか。

(「はい」と言う者あり)

○山川百合子市長 ありがとうございます。今日は第1回でございましたが、こうやって皆さんのご意見をいただいて、意見交換ができて、皆さんと一緒に草加の教育を、行政の側ではありますが、進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日はありがとうございました。

◎閉会の宣言

○総合政策部長 市長、教育長をはじめ教育委員の皆様方、長時間にわたりましてご協議いただきましてありがとうございました。

今後、市長からも話がありましたが、市長部局では、令和6年4月からの教育行政の大綱について、令和5年度中に策定していく予定でございます。先ほど、活発な意見交換をしていただく中で、教育施策の方向性につきまして共有していただきましたので、現在、教育委員会のほうで策定しております第四次草加市教育振興基本計画と整合を図りながら再編していきたいと考えております。その際はご協力いただきますようお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして、令和4年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

正午 閉会

市長 山川百合子

教育長 山本好一郎